

開催地名：徳島県吉野川市	
開催日時	令和4年11月2日（水） 14：00 ～ 15：30
開催場所	吉野川市役所（オンラインによる講演）
語り部	菊池 健一 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織 37名
開催経緯	本市では南海トラフ地震や吉野川の氾濫等の災害が想定されており、自主防災組織も存在している。しかし、避難誘導等で災害時に活動した経験は僅かであるとともに、避難所生活を経験したことがない役員や構成員が多数を占めることが課題となっている。また、組織の女性比率も低い傾向にあり、災害時の女性特有の課題についても対策が不十分なところがあるため、語り部の講演を実施し、課題に対するヒントを得ることとしたい。
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>宮城県沖や福島県沖を震源とする地震がしばしば発生しているため、東北地方は地震の多い地域であるというイメージをお持ちの方は多いと思う。実際に、これまで大規模な地震やそれに伴う津波による被害を受けてきた歴史がある。1978年に発生した宮城県沖地震では、18人の子どもたちがブロック塀の倒壊によって亡くなった。これを契機に宮城県では、自主防災組織を各町内会に設置する動きが起こり、1995年の阪神・淡路大震災以後、この動きは本格化した。しかし、2011年に起こった東日本大震災で、この自主防災組織が県内すべてでうまく機能したわけではない。その時災害現場ではどんな問題が起き、住民はどう対応したのか。これからお話しする内容を基に、是非皆さん自身で考えていただき、今後の防災活動に役立てていただきたい。</p> <p>（２）避難所の開設と運営</p> <p>私が避難した指定避難所の小学校には、当初約1,200人の住民が避難していたが、この地区には自主防災組織がなかったため、人数の把握をはじめとする必要な業務に対応するべく、避難所の運営組織を立ち上げる必要があった。そこで、各町内会長と学校長に相談の上で急遽組織をつくり、私も防災アドバイザーの立場で支援を行った。その時注意したのは、あくまでもコミュニティーを中心とし、町内会長をメインとした組織にすることだった。そうすることで、人員の把握が容易になり、情報の集約や伝達が迅速になることが期待できた。</p> <p>しかし、避難所の住民の数の把握は容易ではなかった。炊き出しをすると、自宅避難者も食料をもらうために避難所に来るので、想定数以上の食糧が必要となった。そのため、電気やガスが復旧した方には、数日分の食糧をお渡しして自宅へ戻っていただき、自力での復興をお願いした。その結果、11日間を要して、避難者数は最終的には自宅に住めなくなった住民や、一人暮らしの高齢者等の270人程度に減った。</p> <p>不特定多数の人々が集まって共同生活を行う避難所では、着替える場所がない、好きな時に寝ることができない、人と違うものを食べにくい、雑魚寝である、トイレがいつも混んでいて汚い、ペットを連れてきたい等々、実に様々な不満や悩みが発生した。このような環境では、特に女性に対する配慮が必要になるので、できれば避難所運営組織の中には、男性だけでなく女性を含めるべきだと考える。そして、最低限の安心と安全が確保される必要がある以上、解決可能な不満については解消していく必要がある。また、避難所はどうして</p>

	<p>も高齢者中心になるため、高齢者の目線での生活サイクルが維持できるように工夫する必要があります。（実際 9 割が高齢者で占められた）</p> <p>避難所の運営を阻害したものとしては、情報の不足による避難者の不安の増大、暖房燃料と避難所運用車両の燃料の不足、通信手段の不全による状況の共有化の難しさが挙げられる。信頼できる情報入手ルートを確立し、災害時に乱れ飛ぶ様々なデマに惑わされないように注意したい。また、燃料の不足と通信手段の不全は予測できるので、車の燃料は常に満タンを維持することや、冬季は灯油もある程度ストックしておくこと、無線を使用した訓練の実施をお勧めしたい。</p> <p>（3）震災の教訓</p> <p>大規模災害が発生すると公助は期待できない。しばらくは自助、共助で乗り切る必要がある。そのためにも、行政、町内会、民生委員等との連帯を密にし、情報の共有化を図ることが必要だと感じた。</p> <p>また、災害はいつ起きるかわからない以上、地域、行政、学校と連携して、早朝や夜間を含めた、よりリアルに近い環境での避難訓練を行うとともに、避難所運営訓練についても実施して、やるべき事柄の確認と想定される問題点の整理等を行っていただきたい。</p> <p>最後に、町内会行事等に積極的に参加して、顔の見える近隣の住民とのコミュニケーションをとっていくことの必要性を強調したい。挨拶や声がけなどを日頃から意識して行い、信頼関係の構築をお願いしたい。</p> <div data-bbox="395 1093 1385 1451">  <p>The image shows a man in a dark suit sitting at a desk in a room, looking at a laptop. To his right is a presentation slide with a light blue background. The slide text reads: '令和4年度 吉野川市自主防災会研修会' (2022 Annual Training for Independent Disaster Prevention Committees of Yoshinokawa City), '東日本大震災に学ぶ 避難所運営の実態' (Learning from the Great East Japan Earthquake: The Reality of Evacuation Shelter Operations), '自助・共助（近助）の力' (The Power of Self-help, Mutual Aid, and Neighboring Aid). It also lists the date '令和4年11月2日（水）' (Wednesday, November 2, 2022), the speaker '宮城県防災指導員 仙台市地域防災リーダー 菊池 健一' (Miyagi Prefecture Disaster Prevention Instructor,仙台市 Regional Disaster Prevention Leader Kenichi Kikuchi), and the title '防災士 菊池 健一' (Disaster Prevention Officer Kenichi Kikuchi).</p> </div>
開催地より	<p>東日本大震災を経験された語り部から、避難所運営についてのお話しを実体験に基づき、わかりやすくご説明いただいた。本市においては本年 7 月に各自主防災会に対して避難所運営マニュアルを配布しており、今後は災害時に迅速に避難所開設ができるよう、訓練等を充実させていきたい。</p>